

中間レポート／今、問われているものは何か

ルポライター 滝川 康治

官と道民は本気になつて “次代の投資効果” 吟味を

日高横断道路の 再評価めぐり攻防

着工から長い年月が経過したにもかかわらず、いまだ完成の目処がつかない公共事業の代表例に、日高山脈襟裳国定公園のど真ん中を貫く日高横断道路（道道静内中札内線・延長約101キロ）がある。

自然保護世論を押し切って、第一期横路道政のときに着工にゴーサインが出されたが、山奥での工事とあつて歳月の経過とともに道民の関心は薄らいでいた。しかし昨年二月、北海道自然保護協会（後述二会長）が事業主体の道と道開発局に対して、未完成区間の工事中止と、この事業の抜本的な再評

破局寸前の財政の下、従来型の公共事業にカネをばらまく手法は不可能になりつつあり、北海道が特別扱いされる時代は終わった。その一方で、失われた山河の生態系を取り戻す仕事は山積し、インフラ整備のあり方が根本から問われている。本連載の後半部分を振り返りながら、これからの北海道の公共事業のあり方を考える。



自然保護団体から抜本的な事業再評価を求める声が上がっている日高横断道路（写真は静内側）。土砂崩れなどの恐れがあるため、静内ダムから奥は通行止めになることが多い

発を進めることを目的に設けられた北海道特例で、旧時代の遺物ともいえる制度。事業費の大半（過去には全額）を国が負担する仕組みになっていたため、自治体側の依存体質が生まれやすい。

全国に「時のアクセスメント」を発信し、公共事業見直しモデルケースをつくった北海道だったが、こと日高横断道路に関しては一本の路線として捉え、総合的な再評価を実施できないでいる。後塵を拝する形になった国の再評価制度ではなおさらである。

日高横断道路に対して道と国がこれまで投じた事業費は四百億円以上で、今後完成までに必要な事業費は八百五十億円あまりと試算されている。破局寸前の日本の財政にとつて半端な金額ではない。せつかく創った再評価制度を活用して事業のあり方を根本的に見直すことができるかどうか——行政側の今後の取り組みが問われている。

代替策の芽育てた 時のアクセスの成果

一九九七年、道の公共事業に対して、当初の目的や役割に「時」という物差しを当て、必要性・妥当性・優先性・効果・住民意識・代替性の六項目を点検・評価する「時のアクセス」が始まった。わたしがこの試みでもっとも評価しているのは、道職員が公共事業の自身を自己点検する作業をシステム化したことである。

「時のアクセス」に触発されて中央省庁も事業再評価制度をスタートさせた。発信元の道庁では、九九年から道の事業すべてについて担当者が自己評価

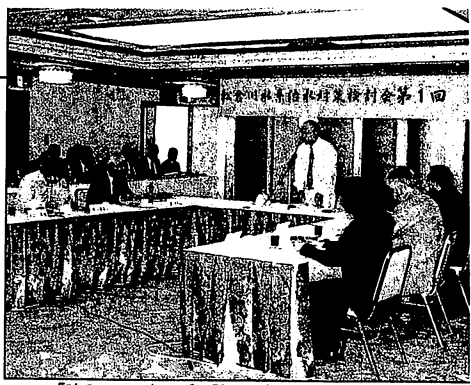
価を求める要望書を提出したことで、事業の行方に一石を投じた（2000年6〜7月号を参照）。同協会はその後、道に対して三回にわたつて質問書を提出し、回答が示された。事業再評価には門外漢の自然保護団体が真正面から公共事業のあり方を問い、行政側と議論を重ねているわけだ。今後の連載のなかで経緯を詳しくレポートする予定だが、道側は抜本的な再評価を避けたまま現在に至っている。

日高横断道路のうち中央部の約二十五キロは「開発道路」に指定され、道開発局が工事を担当してきた。「開発道路」とは、道道や市町村道でも国が特に認めたものは国直轄で工事を行なうものだ。戦後の混乱期に沿線の資源開

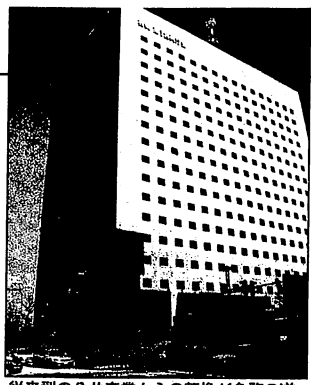
して施策の優先度を定める「政策アクセスメント」も導入している。このシリーズでも、「時のアクセス」で中止が決まった松倉ダムや土幌高原道路について、現地ルポを中心に何度かレポートした。

松倉ダムの再評価では、函館市内の関係する町内会長や市民グループ、流域住民を対象にした説明会や市民委員による意見交換会を開くなど、事業者側（道、函館市）が市民の声を積極的に聴くことを試みた。中止後は、住民と行政・研究者の三者による検討会を設置して、河川に負担を集中させずに流域全体で洪水被害を防ぐ方法（総合治水対策）について議論を重ねている（2000年8月号を参照）。こうした「函館方式」は、「時のアクセス」から生まれた新たな意思プロセスとして高く評価できる。

その一方で、一昨年三月に土幌高原道路の未開区間約二・七キロの建設中止を決めた掘知事は、中止の代替措置として「地元がつくる地域振興策を支援する」との方針を示した。地元自治体や住民グループなどによって振興策の議論がなされ、そうした動きを受



「時のアクセス」でダム計画が中止になり、松倉川の総合治水対策をめざす



従来型の公共事業からの転換が急務の道開発局が入っている札幌第一合同庁舎

「経済的にはトップクラスの農村の士...」

り、国土保全にもつながる。これは中...」

財政は破局寸前 「従来型」に訣別を

北海道開発庁は今年一月、国土交通...」

全国に占める北海道の人口は五%弱...」

幌町に、これ以上の振興策が必要なの...」

山河の復元めざす 事業に知恵絞ろう

国の直轄事業をめぐっても、代替策...」

日本海に注いでいる千歳川の水を洪...」



千歳川放水路計画を話し合った「東大雪フォーラム」

超えるという予算配分のあり方も、早...」

「北海道局」はなくなり、府県の地方...」

官沢財務大臣も認めたとおり日本の...」

流域の総合治水対策に取りくむ」との...」

「時のアクセス」を全国に発信した道は

「この10年の間に三つの財政の波がやっ...」

「もっと大がかりに、コンクリートを...」

り、国と地方を合わせた財政赤字は六...」

「この10年の間に三つの財政の波がやっ...」

「この10年の間に三つの財政の波がやっ...」

「ヨーロッパ諸国では十キロ単位で川...」

「時のアクセス」を全国に発信した道は

「この10年の間に三つの財政の波がやっ...」

「もっと大がかりに、コンクリートを...」

り、国と地方を合わせた財政赤字は六...」

「この10年の間に三つの財政の波がやっ...」

「この10年の間に三つの財政の波がやっ...」